

チョウセンケナガニイニイの交尾・産卵

境 良朗

チョウセンケナガニイニイ *Suisha coreana* (Matsumura, 1927) の交尾・産卵については、交尾は反相型で行い、高所にある枯枝中に産卵するといわれるが、それ以上の具体的な記述はない(林・税所, 2011)。筆者は交尾5例、産卵行動1例を観察・撮影しているので報告する。

交尾

交尾は5例観察したが、いずれも「反相型」で時間帯は正午前後に行われた。

1) 15. X. 2011, 対馬市上県町佐護 11:33 (写真1)

いつ頃から交尾していたのかは不明だが、発見後30分ほどで交尾を解き、ほどなく♂は飛び去っていった。

2) 14. X. 2012, 対馬市上県町佐護 12:24 (写真2)

中胸背の膨らみの感じから下の方(写真向かって左)が♀と思われる。本種は通常、枝に馬乗りの姿勢で静止することが一般的なので、このように下向きになることは珍しい。

3) 20. X. 2012, 対馬市上県町佐護 11:01 (写真3)

交尾姿勢をとっているが、よく見ると連結していないようなので交尾を解いた直後だったと思われる。

4) 12. X. 2013, 対馬市上県町佐護 12:20

5) 23. X. 2016, 対馬市上県町佐護 12:46 (写真4)

交尾の瞬間を目撃することができた。鳴いている♂をしばらく見ていると、通常の鳴き声から急に「チッ・チッ・チッ・チッ…」と短く断続的なものに変化した。すると近くにいた♀が近づいていき、瞬時に交尾が成立した。逆光であったため動画撮影ができず残念であった。



写真1



写真2



写真3



写真4

産卵

1) 16. X. 2013, 対馬市上県町佐護 11:47 (写真5)

細く横に張ったオニグルミの枝にいた早を見ていると、約7分後に腹部を曲げて産卵行動の姿勢をとる様子が認められた。観察位置が悪く、産卵管の確実な挿入までは確認できなかったが間違いはないであろう。この産卵木は樹皮の様子から明らかに生木ではないが、枯れの程度までは確認できなかった。



写真5 腹部末端を曲げて産卵行動をとる

引用文献

林 正美・税所康正, 2011. 日本産セミ科図鑑: 53-56. 誠文堂新光社, 東京.